



CASE 01

和光技研工業有限公司 (柴田郡柴田町)

菊地 亮哉さん (23歳)

Kikuchi Ryoya



NC自動旋盤段取り



画像寸法測定器で納品前に最終確認



NC自動旋盤品質確認



振れ検査する菊地さん

複数の業務に携わり 様々な技術・技能を身につけたい

**高精度・高生産性を追求する
柴田町の精密部品加工企業**

柴田町にある和光技研工業有限公司は、精密部品加工を行っている会社です。NC自動旋盤を用いて幅広い材質のものを加工しています。顧客ニーズにより、一次加工品の熱処理後の内径研削も対応。また、培ってきた経験・技術をもとに、検査機や省力化機械の開発・設計・製造・販売も行い、自動外観検査機の開発で特許を取得。業務効率化や合理化の実現、人手不足の対応、稼働率の向上に繋がると注目を集めています。1977年の創業以来、「高精度・高生産性を追求する」を基本方針に、

加工技術の向上と生産設備の高効率化に日々努めています。

**広範囲のスキルと経験が積めると志望
進んで挑戦しようと思える意識変化も**

入社3年目の菊地さんは、NC自動旋盤で精密部品の加工や二次加工、検査などを担当しています。入社3年目までは「複数の業務や工程に携われること」だと言います。「工場の仕事は、単一工程に特化して専門性を高めるのが普通と思っていたのですが、当社では色々なことを経験できるところにすごく惹かれました。自分の経験値が広がり、スキルアップに

**イメージが形になる楽しさ
意欲的にスキル向上に取り組む**

仕事の好きなところを聞くと、「NC自動旋盤を動かしている時、自分の頭の中でイメージしたものが形になって出てくるところがすごくうれしいです。新しく発注いただいた部品を、自分がプログラミングする時もあります。でも、まだ分からないことが多々あるので、プログラムや刃物に関して覚えなければいけないことがいっぱいあります」と菊地さん。心がけていることは、「どこの工場も同じだと思いますが、まずは怪我をしないようにすること。あと、他の人が忙しそうなのは、作業の手伝いをするんです」と言います。「入社の動機が複数の業務や工程に携われることとい

繋がるのではないかと考えたのです」と菊地さんは話します。菊地さんは、宮城県柴田農林高等学校を卒業後、仙台高等技術専門学校の機械エンジニア科に進みました。「もともと別の訓練科を志望してオープンキャンパスに行ったら、思ったのと違って、機械エンジニア科でタツプのネジ切り体験をしたら、おもしろいし、手に職をつけられると思ったのが進学のことです」。修了後、1社目から転職し同社は2社目です。「もともとマイナス思考になりがちな性格でしたが、仕事を頼まれるということは、自分にできると考えてくれてるんだと思えるようになって。できないかもしれないけれど、やれるだけやってみようと思いを少し変えただけで、自分に自信が持てるようになりました」と菊地さん。照れながら「そういった面が成長したなと思います」と話します。

うこともあり、他の人の手伝いを続けていけば、自ずと自分もその作業ができるようになって、スキルアップに繋がると考えています。例えば、今日休みみたいという人や、業務を今日中に終わらせなければならぬ人がいて、自分が手伝うことで少しでもその人や会社の役に立つのであれば、手伝うように心がけています。

**業務の平準化とチームワークの向上
柔軟性の高い組織づくりを推進**

同社が、働き方改革に取り組んだきっかけは、有給休暇取得率が低いことでした。有給休暇を取得すると、仕事が滞るため休めないという悪循環になっていました。さらに仕事

の進め方が個人商店化しており、別の社員が何をしているか分からない状況でした。

そこで、特定の社員にしかできない業務を無くし、複数の業務を担える「多能工化」に取り組みました。また、管理職が毎週月曜に、手が空きそうな社員を仕事に滞っている社員のサポートにつける調整をすることで、手伝うことは当たり前という風土を醸成しました。その他、時間単位の有給休暇制度、朝方勤務(時差出勤)、フリーアドレスや、「自由な金曜日」の導入も。自由な金曜日は、会社に来ても何をしてもよい日とし、自分の業務の振り返りやスキルアップのための勉強、迷惑が掛からなければ遊んでもOK、もちろん有給休暇を取得してもいいという独自の取組です。多能工化により、社員全員で仕事を前倒しし

今後は一人ひとりに合った 働き方ができる体制を確立していく



これまでの、別の社員が何をしているか分からないという状況で、個人で完結する仕事はほとんどないにも関わらず、他の社員の仕事は関係ないというのが当たり前となっていました。右記文中以外の取組としては、複数の社員が同じ機械を扱えるよう、教える側・教わる側両方に、機械を覚えるための時間を確保。個人が扱える機械を増やすことに加え、互いに学び合うことで、社員間のコミュニケーションの活性化に力を入れました。そうすることで、互いの仕事をシェアするいい雰囲気生まれました。改革をする中で、仕事の進め方がこれまでとは異なるため、「このままでいいのでは」という声も上がり苦労しましたが、10年かけて機能するようになり、年次有給休暇の取得率も約20%から97%を達成。2020年には、みやぎ働き方改革実践企業として認定を受けました。今後は、一人ひとりがモチベーションの上がる働き方ができないか、模索中です。ある社員は、業務とは別の新たなチャレンジによる勉強時間確保のため、6時間勤務に。限られた業務時間の中で逆にパフォーマンスが上がり、無事勉強も終わって8時間勤務に戻りました。そういった要望を現在は個別に対応していますが、制度として確立していきたいと考えています。

会社概要

和光技研工業有限公司

- 所在地 〒989-1606 柴田郡柴田町大字船岡字山田1-20
- TEL 0224-55-1455
- URL <https://wako.miyagi.jp>
- 代表 代表取締役 渡辺 琢也
- 設立 1997年4月
- 従業員数 16人 (2024年3月現在)





NC自動旋盤に数値を入力



マイクロメーターで数値測定



精密部品のしぼり作業



高い精度の画像寸法測定器を使用



ダイヤルゲージを当て振れ量を測定



振れ検査

上司の声



工場長 稲場 晃さん

しっかりと目標を立て着実に成長 地域に貢献する人材となっていきたい

菊地さんは、自立心や責任感、当事者意識が高く、社会人としての自覚をきちんと持っていて、入社20年の私が尊敬するくらい、非常に大人だなと感じています。入社年数が浅いどうしても聞く・教わるだけの人が多いですが、自分の意見をしっかりと言ってくれます。入社間もない頃から「人に教えられたい」という目標を立てており、若手技術者で人材育成に目を向ける社員はなかなかいないと、代表もうれしそうでした。実際に後輩の面倒見もよく、人に教えたり、サポートしたり、そういった気持ちはそのまま大切に持ち続けてもらいたいです。もともと仙台高技専で知識と技術をしっかりと学んで入社してきたこともあり、機械に関しては自信を持って取り組んでくれています。機械以外の手仕事に少し自信が足りないように感じていますので、今後は手仕事の方も伸ばしていってほしいですね。



て金曜は休もうというモチベーションアップに繋がりました。社員同士が自主的にサポートし合い、各々が休みたいタイミングで休めるようになり、有給休暇取得率も上がったため、自由な金曜日は発展的に解消。そんな働き方改革が進んだ時に入社した菊地さんは「急な用事や体調不良で休んでも、みんなでフォローできる体制が整って、すごく働きやすいと感じています」と話します。

細やかなサポートで成長実感を感じ、モチベーション向上に繋げる

育成に関して同社では、入社年数が浅い社員同士で機械の扱い方やプログラミングなどの勉強会や、見積り段階の図面からどうつくっていくかの検討会など、スキルアップを図っています。社員もパートも全員を対象に、半年ごとに目標作成と面談を実施。それぞれが目標を持ち、チャレンジしていくことを大切にしています。そして、他者と比べるのではなく、「自分がどうなりたいか」、過去の自分と対比することを重視しています。各々得意不得意があり、個人に合ったスピードで着実に成長を感じてもらおうと、モチベーションアップにつなげています。また、面談により、悩みや困り事を個別に対応。「この仕事を続けたいのに、続けられないという状況だけはつくりたくない」という想いを持って取り組んでいます。

社員のやりがいや成長の芽を摘んでしまう出来事があったそうです。残業を減らすことだけでは働き方改革ではないと、個々の裁量でキリのいい状態までやる仕組みに変えました。このように、速やかに柔軟に対応していくことで、働きやすい環境を整えています。

みんなでサポートし合い、いい製品をつくりあげていきたい

「製品がイメージ通りに出来上がった時は、やっぱりやりがいを感じます。ですが、ほんの少しでも幅が長かったり短かったりしてしまうと、利益はゼロになってしまいます。0か100かという部分も、おもしろいところだなと思います。100を当たり前につくっていきたくないと菊地さん。「今後の目標は、注文をいただいたものに関しては、すべてつくれるようになりたいですね。あと、周りをよく見て、進んで手助けできるような人間になりたいです」と話してくれました。



自動外観検査機「Wako1」(特許取得)を後輩に説明する菊地さん

後輩へメッセージ

「まずはやってみよう」と思うことが大事

仕事を頼まれるということは、それができると信頼されているから。そう思うことで、進んで挑戦できるようになりました。もともと「自分には無理!」と思うタイプでしたが、「やれるだけやってみよう」と少し考え方を考えるだけで、前向きになりました。社会人になって仕事ができるか不安だと思っても、少しプラスに変換して頑張ってください。また、ものづくりは自分1人だけでいいのではなく、社員さんもパートさんもみんなで一緒にいい製品をつくっていくという気持ちが大事だと思っています。

オフショット

家族と一緒に過ごす時間が最優先

結婚3年目で2歳の娘がいます。共働きなので、妻と休みが重なる時は、家族みんなで動物園や水族館など、色々なところに出かけて、おもいっきり遊びます。娘が大きくなったら一緒に遊んでくれないかかもしれないと思い、一緒に過ごせる今の時間をとても大切にしています。子育てで優先の生活ですが、隙間時間があれば漫画を読むことも。同僚や上司と好きな漫画の話で盛り上がるのも楽しみのひとつです。



細やかで丁寧な育成プログラムを展開

メンターが悩みの相談に乗ることで、業務はもちろん、社会人としての成長をサポート。また、半年に1回、「自分がどうなりたいか」の目標を設定し、フィードバック面談を実施。他者ではなく過去の自分との対比で、自己成長の実感を促します。



採用担当者の声



代表取締役 渡辺 琢也さん

なりたい自分にチャレンジ! 一歩ずつ成長していきましょう

当社はBtoBなので派手さはないかもしれませんが、インフラの一部「人々の当たり前を支えるものづくり」をしています。例えば、部品を1万個つくったら、1万個全部同じように使える、そこに誇りを持って働いています。ものづくりに興味がある方はもちろん、自分がどうなりたいかという目標を持ってチャレンジし、自分で一歩ずつ成長してくれる方が求める人物像です。